

あっぱれ！！野口みずき 世界陸上堂々の銀メダル アテネ五輪も内定

『田中真知（名城大）ユニバーシアード金メダル』の喜びも覚めやらぬ翌日、今度は世界陸上女子マラソン（パリ）で三重県伊勢市出身の野口みずき（グローバリー・厚生中学校 宇治山田商業高校卒業）が2時間24分14秒で銀メダルを獲得するという快挙を成し遂げてくれた。日本人の中でトップとなり、なおかつメダルを獲得したので、来年のアテネ五輪女子マラソンの日本代表にも内定した。

レース終了後、各紙が一斉に野口選手の活躍ぶりを掲載した。地元の伊勢新聞は一面からスポーツ面、社会面に至るまで女子マラソン関連の記事で埋め尽くされた。

『山商出身、野口選手が銀 アテネ切符第1号』と写真入で一面トップを飾り『バネのきいた走りで躍進』の中では、高校卒業から銀メダルまでへの道程が詳しく紹介されていた。ワコール入社当時は同期の中では下から2番目のタイムであった野口選手が98年藤田信之監督とともに退社。失業保険を受けながらも走り続けたときに、今までよりも自立できるようになり、99年藤田監督とともにグローバリーへ入社。地道な筋力強化や効率のいい動き作りと走り込みで野口独特の飛び跳ねるようなバネのきいた走りを習得。少し地力がついた後も、すぐマラソン路線を歩まず、じっくりハーフマラソンで鍛え上げた。野口選手の才能と藤田監督の卓越した理論と実践がパリの地で結実した。

この点について、三重陸上競技協会の村島諭明副会長は『ジュニアで鍛えすぎると精神的にも肉体的にも“焼け切れ症状”が出てしまう。余裕を残して育て上げた指導者と、素材をわれわれ以上に評価して押し上げてくれた藤田監督との信頼関係でここまでこられたのでは』と分析している。

他紙も一面・スポーツ面で詳しく紹介されており、中日・朝日・読売では社会面において野口選手のご家族、厚生中時代の指導者中村宏教諭、宇治山田商高時代の指導者山本顕教諭らのコメントが写真入で紹介された。

『練習の虫 野口快走』地元の伊勢も興奮（朝日）

『野口 耐え抜いた』鍛えたバネ石畳克服（中日）

家族『ありがとう』たたえる恩師ら（読売）

世界陸上では三重県から初のメダリストとなった野口みずき選手。地元は大喜びに沸き返っている。